

1 健康科学課

健康科学課は、細菌、ウイルス、臨床（表 1-1）及び理化学に関する試験検査業務と感染症情報センター、並びに研究所の管理運営業務を実施している。

細菌検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒、苦情食品、収去食品、飲料水、プール水、河川水、及び浴槽水等の試験検査、並びに調査研究を実施している。

ウイルス検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒及び腸管感染症の発生時の検査、並びに調査研究を実施している。

臨床検査では、三歳児健康診査及び HIV 抗体検査を実施している。

理化学検査では、食品及び家庭用品について GLP（検査結果の信頼性を確保するための検査業務管理制度）に則した試験検査のほか、食中毒、苦情食品の理化学検査、飲料水及びプール水の水質検査、室内空気中の化学物質検査、並びに調査研究を実施している。

感染症情報センターでは、結核・感染症発生動向調査事業に基づく感染症情報の収集・管理・分析等を行い、国に報告するとともに、ホームページ上で情報提供・公開（毎週更新）を行っている。

（１）細菌検査

ア 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査

保健所からの依頼により検査を実施した（表 1-2-1）。腸管出血性大腸菌では 026、0103、0145、0157、0174 の届出があり検査を実施した（表 1-2-2）。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）検査では、*Enterobacter cloacae* 4 検体及び *Citrobacter freundii* 1 検体から IMP 型、*Escherichia coli* 1 検体から NDM 型のカルバペネマーゼ遺伝子が検出された（表 1-2-3）。

イ 食中毒及び苦情食品の検査

食中毒及び苦情に伴う患者便、食品、拭き取り等について原因菌及び寄生虫の検索を行った（表 1-3）。原因菌として、黄色ブドウ球菌及びカンピロバクター属菌等が検出された。

ウ 収去食品等の検査

食品衛生法に基づく規格基準、千葉市の指導基準及び食品の汚染状況に係る細菌検査を実施した（表 1-4）。

エ 水質検査

水道法に基づく飲料水、千葉市遊泳用プール指導要綱に基づくプール水及び環境基本法等に基づく事業場排水、河川水、海水の細菌検査を実施した（表 1-5）。

また、公衆浴場法及び特定建築物維持管理指導要綱に基づき、浴槽水、冷却塔水等のレジオネラ検査を実施した。

オ 腸内細菌検査

保健所等からの依頼により職員、及び給食従事者の定期検便等を実施した（表 1-6）。赤痢菌、チフス菌、パラチフス A 菌及び腸管出血性大腸菌 0157 の病原菌は検出されなかった。

（２）ウイルス検査

ア 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査（表 1-7）

（イ）麻疹ウイルス及び風疹ウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 218 検体、血液 210 検体及び尿 201 検体の計 629 検体について検査を実施した。その結果、麻疹ウイルスは 4 症例 8 検体、風疹ウイルスは 26 症例 47 検体から検出された。その内訳は、麻疹ウイルスは A 型（ワケン株）が 1 症例、B3 型が 2 症例、D8 型が 1 症例、風疹ウイルスは型別不明が 8 症例、1E 型が 17 症例、2B 型が 1 症例であった。

（ロ）新型コロナウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 243 検体、鼻咽頭ぬぐい液 371 検体、喀痰 144 検体、血液 2 検体、尿 1 検体及びその他（気管吸引液 16 検体）の計 777 検体について検査を実施した（陰性化確認検査を含む）。その結果、新型コロナウイルスが咽頭ぬぐい液から 24 検体、鼻咽頭ぬぐい液から 18 検体、喀痰から 29 検体、気管吸引液から 1 検体検出された。また、検疫所から依頼された咽頭ぬぐい液 63 検体について検査を実施した結果、新型コロナウイルスが 20 検体から検出された。

（ハ）その他のウイルス検査

保健所及び病原体定点から依頼された咽頭ぬぐい液、糞便及び髄液等 524 検体について検査を実施した。

イ 食中毒及び感染症発生時のウイルス検査

食中毒及び感染症発生時の食品、糞便及び拭き取り検体について、ノロウイルス及びその他のウイルス検査を実施した。また、ウイルスが検出された一部の検体については遺伝子解析（シーケンス）を実施した（表 1-8）。

ウ 蚊媒介感染症に関する定点モニタリング検査

保健所から依頼された蚊の虫体 10 検体（66 匹）について、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの検査を実施した（表 1-1）。その結果、全ての検体で不検出であった。

（３）臨床検査

ア 三歳児健康診査

三歳児健康診査において、尿検査（一次、二次）を実施した（表 1-9）。一次検査での有所見者（糖・蛋白・潜血反応が±以上、白血球・亜硝酸塩が±以上）を対象に、二次検査を実施した。

イ HIV抗体検査

特定感染症検査等事業に係るHIV抗体検査を行った。スクリーニング検査 647 件のうち、確認検査による陽性は1件であった（表 1-10）。

表 1-1 2019 年度 健康科学課（細菌・寄生虫・ウイルス・臨床）検査実施状況

		検 体 数
細菌	結核・感染症発生動向調査事業	132
	食中毒及び苦情食品（寄生虫を除く）	635
	収去食品等	394
	水質検査	779
	腸内細菌検査	250
寄生虫	食中毒及び苦情食品	5
ウイルス	結核・感染症発生動向調査事業	1,993
	食中毒及び感染症発生時	641
	蚊媒介感染症定点モニタリング	10
臨床	三歳児健康診査（尿検査）	6,819
	HIV 抗体検査	647
総 計		12,305

表 1-2-1 2019 年度 結核・感染症発生動向調査事業に基づく細菌検査実施状況

検 査 項 目	検 体 数
赤痢菌	－
チフス菌	1
コレラ菌	－
腸管出血性大腸菌（EHEC）	88
CRE	22
その他（MRSA）	21
計	132

表 1-2-2 2019 年度 EHEC 検査実施状況（再掲）

血 清 型	検 体 数
026	8
0103	9
0145	5
0157	63
0174	3
計	88

表 1-2-3 2019 年度 CRE 検査実施状況（再掲）

菌 種	検 体 数	検出遺伝子数（型）
<i>Enterobacter cloacae</i>	5	4（IMP）
<i>Citrobacter freundii</i>	1	1（IMP）
<i>Escherichia coli</i>	1	1（NDM）
<i>Klebsiella aerogenes</i>	15	－
計	22	6

表 1-3 2019 年度 食中毒及び苦情食品等の細菌検査実施状況（寄生虫を含む）

区 分		総数	食品	糞便	吐物	ふきとり	その他
検 体 数		640	43	350	－	239	8
項 目 数		9,206	489	5,124	－	3,585	8
検 査 項 目	生菌数	2	2	－	－	－	－
	大腸菌群	－	－	－	－	－	－
	E.coli	－	－	－	－	－	－
	ビブリオ属菌	611	31	341	－	239	－
	黄色ブドウ球菌	621	41	341	－	239	－
	サルモネラ属菌	611	31	341	－	239	－
	カンピロバクター	635	42	349	－	239	5
	腸管出血性大腸菌	611	31	341	－	239	－
	病原大腸菌	611	31	341	－	239	－
	セレウス菌	611	31	341	－	239	－
	ウエルシュ菌	611	31	341	－	239	－
	エルシニア	611	31	341	－	239	－
	エロモナス	611	31	341	－	239	－
	プレジオモナス	611	31	341	－	239	－
	赤痢菌	611	31	341	－	239	－
	コレラ菌	611	31	341	－	239	－
	チフス菌	611	31	341	－	239	－
	パラチフス菌	611	31	341	－	239	－
	その他の菌	－	－	－	－	－	－
	寄生虫	5	1	1	－	－	3
検 出 状 況	黄色ブドウ球菌	53	－	51	－	2	－
	<i>Salmonella</i> Senftenberg	1	－	1	－	－	－
	<i>Campylobacter jejuni</i>	60	1	54	－	－	5
	<i>Campylobacter coli</i>	5	1	4	－	－	－
	セレウス菌	24	1	18	－	5	－
	ウエルシュ菌	13	－	13	－	－	－
	<i>Anisakis simplex</i>	3	－	－	－	－	3

表 1-4 2019 年度 収去食品等の細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	細菌数	大腸菌群	E.coli 最確数	E.coli	乳酸菌数	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	セレウス菌	ウェルシュ菌	リステリア	クロストリジウム属菌	恒温試験	細菌試験	抗生物質	項目数
総 数	394	240	143	9	126	4	674	35	158	140	93	107	3	-	2	-	5	5	10	1,754
魚介類	51	11	2	9	-	-	134	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	201
冷凍食品 (無加熱摂取)	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
冷凍食品 (凍結前加熱)	21	21	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42
冷凍食品 (凍結前未加熱)	16	16	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
魚介類加工品	25	8	18	-	4	-	66	-	-	3	-	10	-	-	-	-	-	-	-	109
肉卵類及び その加工品	75	25	5	-	14	-	-	-	38	71	30	13	-	-	-	-	-	-	-	196
乳製品	14	5	12	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	23
アイスクリーム類 氷菓	10	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
穀類及び その加工品	15	14	6	-	9	-	18	-	14	3	3	3	1	-	-	-	-	-	-	71
野菜類・果実及び その加工品	53	26	21	-	22	-	96	-	15	3	-	21	2	-	-	-	-	-	-	206
菓子類	31	31	30	-	1	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	93
清涼飲料水	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
牛乳	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
加工乳(3%未満)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他の食品	65	60	-	-	60	-	360	-	60	60	60	60	-	-	-	-	5	5	-	730

表 1-5 2019 年度 水質細菌検査実施状況

項目	検体数	一般細菌	嫌気性芽胞菌	大腸菌	大腸菌群	大腸菌群数	大腸菌群数 (最確数)	EHEC O157	レジオネラ	項目数
飲料水										
水道原水	135	5	100	131	-	-	-	-	-	236
水道水	224	224	-	223	-	-	-	-	-	447
井戸水	167	167	-	166	-	-	-	-	-	333
小 計	526	396	100	520	-	-	-	-	-	1,016
プール水	11	11	-	-	11	-	-	-	-	22
事業場排水	69	-	-	-	-	69	-	-	-	69
河川水、海水	132	-	-	-	-	-	132	-	-	132
浴槽水、冷却塔水等	41	-	-	-	-	-	-	-	41	41
総 数	779	407	100	520	11	69	132	-	41	1,280

表 1-6 2019 年度 腸内細菌検査実施状況

検 査 項 目	検 体 数
赤痢菌	73
チフス、パラチフス A 菌	73
腸管出血性大腸菌 0157	104
計	250

表 1-7 2019 年度 結核・感染症発生動向調査事業に係るウイルス検査実施状況

		咽頭 ぬぐ い液	鼻咽 頭ぬ ぐい 液等	喀痰	糞便 等	髄液	血液	尿	その 他	計
検 体 数	病原体定点	52	320	51	12	-	-	-	6	441
	保健所	483	373	144	15	13	234	210	17	1,489
	検疫所	63	-	-	-	-	-	-	-	63
	計	598	693	195	27	13	234	210	23	1,993
検 出 状 況	インフルエンザウイルス	1	45	-	-	-	-	-	-	46
	コクサッキーウイルス	-	2	-	-	-	-	-	4	6
	エコーウイルス	2	1	1	-	-	-	-	-	4
	ヒトパレコウイルス	1	-	-	1	1	-	-	-	3
	ヒトライノウイルス	8	61	15	-	-	-	-	-	84
	ヒトコロナウイルス	-	16	4	-	-	-	-	-	20
	新型コロナウイルス	44	18	29	-	-	-	-	1	92
	RS ウイルス	-	68	14	-	-	-	-	-	82
	ヒトメタニューモ ウイルス	6	48	6	-	-	-	-	1	61
	パラインフルエンザ ウイルス	-	29	10	-	-	-	-	1	40
	ヒトボカウイルス	6	29	12	-	-	-	-	-	47
	アデノウイルス	31	11	2	-	-	-	-	-	44
	単純ヘルペスウイルス	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	ヒトヘルペスウイルス	3	-	-	-	-	2	-	-	5
	ムンプスウイルス	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	A 型肝炎ウイルス	-	-	-	2	-	-	-	-	2
	E 型肝炎ウイルス	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	ノロウイルス	-	-	-	4	-	-	-	-	4
	サポウイルス	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	ロタウイルス	-	-	-	3	-	-	-	-	3
	デングウイルス	-	-	-	-	-	2	-	-	2
	麻疹ウイルス	4	-	-	-	-	3	1	-	8
	風疹ウイルス	21	-	-	-	-	10	16	-	47

表 1-8 2019 年度 食中毒及び感染症発生時のウイルス検査実施状況

		食品	糞便	吐物	拭き取り	その他	計
検 体 数	食中毒	28	330	-	233	-	591
	感染症	-	50	-	-	-	50
	計	28	380	-	233	-	641
項 目 別 検 体 数	ノロウイルス	28	380	-	233	-	641
	その他のウイルス(※)	28	350	-	227	-	605
	遺伝子解析	-	34	-	-	-	34
	計	56	764	-	460	-	1,280
検 出 状 況	ノロウイルス GⅠ	-	5	-	-	-	5
	ノロウイルス GⅡ	-	79	-	-	-	79
	サポウイルス	-	1	-	-	-	1
	アストロウイルス	-	-	-	-	-	-
	ロタウイルス	-	3	-	-	-	3
	アデノウイルス	-	-	-	-	-	-

(※) その他のウイルス：サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルス

表 1-9 2019 年度 三歳児健康診査

検 査 項 目		区 分	総 数	内 訳	
				一次	二次
尿	糖		6,819	6,171	648
	蛋白		6,819	6,171	648
	潜血反応		6,819	6,171	648
	白血球		6,819	6,171	648
	亜硝酸塩		6,819	6,171	648
	比重		6,171	6,171	-
	沈渣		648	-	648

表 1-10 2019 年度 H I V 抗体検査実施状況

項目	件数	陽性数
スクリーニング検査	647	2
確認検査	2	1

(4) 理化学検査

ア 食品等検査

検査総数は、食品等 827 検体、18,329 項目であった。

(7) 収去・買上食品中の添加物等、乳等規格、容器包装等規格、重金属、及び自然毒検査

a 添加物等検査

加工食品等について、甘味料 254 項目、着色料 1,671 項目、保存料 218 項目、酸化防止剤 108 項目、漂白・殺菌剤 14 項目、発色剤 23 項目、防ばい剤 2 項目、品質保持剤 11 項目、乳化剤 10 項目、合計 2,311 項目を実施した(表 1-11-1)。

b 乳等規格検査

乳及び乳製品等について、31 項目を実施した(表 1-11-1)。

c 器具及び容器包装規格検査

器具容器包装 6 検体 49 項目(器具容器包装の重金属検査 18 項目を含む)を実施した(表 1-11-1～2)。

d 添加物規格検査

添加物及びその製剤 2 検体 11 項目を実施した(表 1-11-1)。

e 清涼飲料水規格検査

清涼飲料水 19 検体 86 項目を実施した。

f 重金属検査

清涼飲料水、器具及び容器包装、魚介類など 22 検体について 75 項目(容器包装等規格検査の 18 項目、添加物規格の 2 項目及び清涼飲料水規格の 28 項目の重金属検査を含む)を実施した(表 1-11-1～2)。

g 自然毒検査

野菜類等のカビ毒、及び貝毒について 12 検体 14 項目を実施した(表 1-11-1、表 1-11-3)。

(4) 農産物等の残留農薬検査

収去・買上検査として、80 検体 13,485 項目、学校給食食材 10 検体 10 項目、全体として 178 種類の農薬について、合計 90 検体 13,495 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-4-1～3)。

(7) 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

乳(生乳・牛乳) 6 検体 96 項目、鶏卵 9 検体 171 項目、食肉(牛肉・豚肉・鶏肉) 39 検体 816 項目(うち 2 検体 2 項目は学校給食食材)、魚介類(コイ・マダイ等 10 種) 20 検体 103 項目、全体として 23 種類の動物用医薬品について 74 検体 1,186 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-5)。

(1) 組換え DNA 技術応用食品の検査

加工食品中における、安全性未審査の遺伝子組換えトウモロコシ(CBH351(スターリンク))の有無についての検査を、5 検体実施した(表 1-11-1、表 1-11-6)。

(4) 食品中の放射性物質検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質の汚染状況について、流通食品及び給食(提供食・食材)の検

査を 436 検体実施した(表 1-11-1、表 1-11-7)。

(4) その他

穀類及びその加工品について、水分等 61 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

(4) 苦情食品等検査

保健所から依頼された 5 件 24 検体 225 項目を実施した(表 1-11-1、表 1-11-8～9)。

イ 家庭用品の規格検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、ホルムアルデヒド等 8 項目について繊維製品 13 種 72 検体 107 項目、家庭用化学製品 3 種 8 検体 21 項目、合計 16 種 80 検体 128 項目の検査を実施した(表 1-12)。

ウ 飲料水等及び遊泳用プール水の水質検査

水道法の「水質基準に関する省令」に基づき、51 基準項目(31 健康項目+20 性状項目)、及び「千葉県遊泳用プール指導要綱」に基づきプール水の検査を実施した。

検査件数は 593 件で、このうち飲料水等の水質検査は 569 件、プール水は 24 件であった(表 1-13-1)。

自家用井戸水の検査件数 168 件中 34 件(20.2%)で不適項目があった(表 1-13-2)。

必須項目検査を実施した自家用井戸水(168 件)の検査結果を区別、項目別に集計した(表 1-13-3)。

検査を実施した飲料水等の検査項目別理化学検査の検体数と不適合数を集計した(表 1-13-4)。

プール水検査状況を集計した(表 1-13-5)。

エ 室内空气中化学物質の検査

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく依頼検査を 3 件 15 検体実施した(表 1-14)。

表 1-11-1 2019 年度 食品理化学等検査実施状況

検査項目 検体の種類	総 検 体 数	添 加 物 等										乳等規格 容器包装等規格 添加物規格 清涼飲料水規格 重金属 自然毒					残留農薬 動物用医薬品 組換えDNA技術応用食品 放射性物質 その他					総 検 査 項 目 数
		甘味料	着色料	保存料	酸化防止剤	漂白・殺菌剤	発色剤	防ばい剤	品質保持剤	乳化剤												
合 計	827	254	1,680	218	108	14	23	2	11	10	31	49	11	86	35	14	13,659	1,186	5	872	61	18,329
収去・買上等 計	803	254	1,671	218	108	14	23	2	11	10	31	49	11	86	29	14	13,495	1,186	5	872	15	18,104
魚 介 類	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	5	-	103	-	58	2	195
魚介類加工品	39	44	255	42	6	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	372
肉 卵 類 及 び そ の 加 工 品	74	-	168	15	12	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	987	-	14	-	1,212
乳 製 品	31	18	-	21	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	73
乳 類 加 工 品	4	-	-	9	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23
アイスクリーム 類 ・ 氷 菓	10	20	120	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	145
穀 類 及 び そ の 加 工 品	24	-	96	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	810	-	5	6	11	939
野菜類・果物及 びその加工品	173	62	402	58	8	14	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	12,685	-	-	88	-	13,322
菓 子 類	43	92	522	45	70	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	2	745
清 涼 飲 料 水	19	6	36	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	86	-	-	-	-	-	28	-	166
その他の食品	304	12	72	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	596	-	698
添 加 物 及 び そ の 製 剤	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	-	-	-	-	13
器具容器包装	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49
生 乳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	16	-	-	-	19
牛 乳	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	5	-	80	-	18	-	123
加工乳（乳脂肪 分 3 % 未 満）	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	8
そ の 他 の 乳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
苦情食品等 計	24	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	164	-	-	-	46	225

表 1-11-2 2019 年度 重金属検査（検体種別 収去・買上検査）

検 体 名 項 目 名	器具及び容器包装規格	添加物規格	清涼飲料水規格	カキ	クルマエビ	スズキ	ヒラメ	ブリ	ホタテガイ	マダイ	ムラサキイガイ	総計
検体数	6	2	5	1	1	1	1	2	1	1	1	22
ホウ素	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
六価クロム	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
マンガン	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
銅	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ヒ素	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	7
セレン	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
カドミウム	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	8
アンチモン	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
バリウム	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鉛	6	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	11
水銀	-	-	2	1	1	1	1	2	1	1	1	11
T B T O	-	-	-	1	1	1	1	2	1	1	1	9
T P T	-	-	-	1	1	1	1	2	1	1	1	9
重金属試験法 （器具及び容器包装規格・添加物規格）	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
項目数	18	2	28	3	3	3	3	6	3	3	3	75

表 1-11-3 2019 年度 自然毒検査（検体種別 収去・買上検査）

検 体 名 項 目 名	らつかせい	牛乳	生乳	カキ	ホタテガイ	ムラサキイガイ	総計
検体数	3	5	1	1	1	1	12
アフラトキシン	3	-	-	-	-	-	3
アフラトキシンM1	-	5	1	-	-	-	6
下痢性貝毒	-	-	-	1	1	-	2
麻痺性貝毒	-	-	-	1	1	1	3
項目数	3	5	1	2	2	1	14

表 1-11-4-1 2019年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 収去・買上検査）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
穀類及びその加工品	小麦粉	5	810
豆類	らっかせい	3	450
果実	いちご	2	346
野菜	アスパラガス	1	159
	えだ豆	1	173
	オクラ	1	174
	かぼちゃ	1	164
	カリフラワー	1	172
	キャベツ	4	680
	きゅうり	2	346
	ごぼう	1	177
	こまつな	5	847
	さつまいも	1	170
	さといも	3	510
	サラダ菜	3	519
	すいか	2	346
	セロリ	1	172
	だいこん	2	352
	チンゲン菜	1	174
	トマト	1	176
	なす	2	352
	にら	2	342
	にんじん	7	1226
	ねぎ	4	684
	はくさい	1	173
	ばれいしょ	1	167
	ピーマン	1	160
	ブロッコリー	4	675
	ほうれんそう	5	834
	未成熟いんげん	1	172
	未成熟えんどう	1	172
	らっきょうその他ユリ科	1	171
	レタス	3	519
	わけねぎ	1	171
茶	茶	5	750
合 計		80	13,485

表 1-11-4-2 2019年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 学校給食食材）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
果実	みかん	1	1
野菜	キャベツ	2	2
	セロリ	1	1
	たまねぎ	2	2
	にんじん	2	2
	ねぎ	1	1
	ほうれんそう	1	1
合 計		10	10

表 1-11-4-3 2019年度 農作物等の残留農薬検査（農薬別 収去・買上、学校給食食材検査数）

農薬名	検査数	農薬名	検査数	農薬名	検査数
BHC	80	ジメトエート	80	フルバリネート	80
DDT	77	ジメピペレート	80	フルフェノクスロン	59
EPN	3	シラフルオフェン	77	フルミオキサジン	80
XMC	77	ダイアジノン	80	フルミクロラックペンチル	68
アクリナトリン	80	チオベンカルブ	80	プレチラクロール	80
アザコナゾール	75	チオメトン	75	プロシミドン	80
アセタミブリド	70	テトラクロルビンホス	80	プロチオホス	77
アセトクロール	80	テトラジホン	80	プロバクロール	75
アトラジン	68	テニルクロール	80	プロパニル (DCPA)	68
アメトリン	48	テブコナゾール	80	プロパルギット	80
アルジカルブ	59	テブフェノシト	59	プロピコナゾール	80
アルドリン及びディルドリン	36	テブフェンピラド	80	プロピザミド	80
イサゾホス	80	テフルトリン	80	プロフェノホス	80
イソキサチオン	80	テフルベンズロン	59	プロボキシル	80
イソフェンホス	80	デルタメトリン	80	プロマシル	80
イソプロカルブ	80	テルブホス	80	プロメトリン	80
イソプロチオラン	80	トリアジメノール	80	プロモブチド	80
イブロジオン	80	トリアジメホン	80	プロモプロピレート	80
イブロバリカルブ	59	トリアゾホス	80	プロモホスメチル	80
イブロベンホス	80	トリアレート	77	ヘキサジノン	75
イマザメタベンズメチルエステル	72	トリブホス (DEF)	80	ベナラキシル	80
イミベンコナゾール	71	トリフロキシストロビン	80	ベノキサコル	80
エスプロカルブ	80	トルクロホスメチル	80	ヘプタクロール	77
エチオン	80	トルフェンピラド	80	ペルメトリン	77
エディフェンホス	80	ナプロパミド	80	ベンダイオカルブ	59
エトフメセート	80	ニトロタールイソプロピル	80	ペンディメタリン	80
エトプロホス	80	ノルフルラゾン	80	ベンフルラリン	75
エトリムホス	80	パクロブトラゾール	80	ベンフレセート	80
エンドスルファン	80	パラチオン	79	ホサロン	80
エンドリン	31	パラチオンメチル	80	ホスチアゼート	80
オキサジアゾン	80	ハルフェンブロックス	77	ホスファミドン	75
オキサジキシル	80	ピテルタノール	80	ホスメット	68
オキサミル	59	ピフェントリン	80	ホレート	75
オキシフルオルフェン	80	ピペロホス	80	マラチオン	80
カズサホス	80	ピラクロホス	80	ミクロブタニル	75
カルバリル	59	ピラゾホス	80	メタラキシル	80
カルフェントラゾンエチル	80	ピリダフェンチオン	80	メチオカルブ	80
カルボフラン	80	ピリダベン	80	メチダチオン	80
キナルホス	48	ピリフェノックス	80	メトキシクロル	80
キノキシフェン	80	ピリプロキシフェン	80	メトミノストロビン	80
キノクラミン	43	ピリミカルブ	59	メトラクロール	80
キントゼン	72	ピリミホスメチル	80	メフェナセツト	80
クロマゾン	80	ピンクロゾリン	80	メプロニル	80
クロルタールジメチル (TCTP)	80	フェナミホス	80	モノクロトホス	75
クロルデン	77	フェナリモル	80	ルフェヌロン	59
クロルピリホス	90	フェニトロチオン	80	レナシル	76
クロルピリホスメチル	80	フェノチオカルブ	80		
クロルフェンビンホス	80	フェノトリン	77		
クロルフルアズロン	59	フェノブカルブ	59		
クロルプロファム	80	フェンスルホチオン	75		
クロルベンジレート	80	フェンチオン	80		
シアノホス	80	フェントエート	80		
ジエトフェンカルブ	80	フェンバレレート	80		
ジクロホップメチル	80	フェンブコナゾール	75		
ジクロラン	80	フェンプロバトリン	80		
ジコホール	65	フェンプロピモルフ	77		
シハロトリン	80	フサライド	80		
ジフェナミド	80	ブタミホス	80		
ジフェノコナゾール	80	ブピリメート	80		
シフルトリン	80	ブプロフェジン	80		
ジフルベンズロン	59	フラムブロップメチル	80		
シブコナゾール	80	フルアクリピリム	80		
シベルメトリン	77	フルシトリネート	80		
シマジン	80	フルシラゾール	80		
ジメタメトリン	75	フルトラニル	68		
ジメチルビンホス	80	フルトリアホール	80		
				合計	13,495

表 1-11-5 2019 年度 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

検 体 名 項 目 名	牛乳	生乳	鶏卵	牛肉	豚肉	鶏肉	アユ	マダイ	コイ	ニジマス	ウナギ	ヒラメ	クルマエビ	ブリ	スズキ	生食用カキ	総計
検 体 数	5	1	9	13	1	25	1	1	1	2	1	1	1	2	1	9	74
オキシテトラサイクリン	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	9	71
クロルテトラサイクリン	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
テトラサイクリン	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
スピラマイシン	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	1	-	4
スルファメラジン	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	62
スルファジミジン	5	1	9	13	1	25	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	64
スルファモノメトキシシ	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	62
スルファジメトキシシ	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	62
スルファキノキサリン	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	62
スルファジアジン	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
スルファチアゾール	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
スルファドキシシ	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
スルファメトキサゾール	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
オキシリン酸	5	1	-	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	53
チアンフェニコール	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	62
オルメトプリム	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	-	62
チアベンダゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
フルベンダゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
トリメトプリム	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
5-プロピルスルホニル -1H-ベンズイミダゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
レバミゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
オフロキサシン	-	-	-	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
オルビロキサシン	-	-	-	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
項 目 数	80	16	171	286	1	529	9	10	9	18	9	9	9	20	1	9	1,186

表 1-11-6 2019 年度 組換えDNA技術応用食品検査

品 種	検体種類	項 目	検体数	項目数
トウモロコシ	加工食品	C B H 3 5 1 (スターリンク)	5	5

表 1-11-7 2019 年度 放射性物質検査

対 象 食 品	検体数	依頼元
流通食品	150	食品安全課
保育所給食 提供食 食 材	94	幼保運営課
	65	
学校給食 提供食 食 材	72	保健体育課
	55	
合 計	436	

表 1-11-8 2019 年度 苦情食品等検査

搬入月	依頼件数	検 体 の 種 類	検体数	検 査 項 目
4 月	1	オリーブオイル	1	農薬（164 項目）、酸価、過酸化価
8 月	1	プロテイン	2	鉛
		サプリメント	2	鉛
		水道水	1	鉛
		ミネラルウォーター	1	鉛
9 月	1	焼きおにぎり	2	揮発性有機化合物(19 項目)
10 月	1	モロヘイヤ	6	自然毒（ストロファンチジン）
12 月	1	クラッカー	2	食用黄色 4 号
		パーム油	1	食用黄色 4 号
		コーンスターチ	1	食用黄色 4 号
		グルコースシロップ	1	食用黄色 4 号
		膨張剤	1	食用黄色 4 号
		砂糖	1	食用黄色 4 号
		全粉乳	1	食用黄色 4 号
		塩	1	食用黄色 4 号
合 計 5 件		24		

表 1-11-9 2019 年度 苦情食品等検査 (検査項目別検体数・項目数)

検 査 項 目	検体数	項目数
揮発性有機化合物(19 項目)	2	38
酸価	1	1
過酸化価	1	1
農薬 (164 項目)	1	164
鉛	6	6
食用黄色 4 号	9	9
自然毒 (ストロファンチジン)	6	6
合 計	26	225

表 1-12 2019 年度 家庭用品検査

項 目 名 検 体 名		ホルム アルデヒド		有 機 水 銀 デ ィ ル ド リ ン 水 酸 化 カ リ ウ ム ・ 水 酸 化 ナ ト リ ウ ム メ タ ノ ー ル テ ト ラ ク ロ ロ エ チ レ ン ト リ ク ロ ロ エ チ レ ン 容 器 試 験								項 目 数 合 計	検 体 数 合 計
		生後二十四ヶ月以下の乳幼児用	小 計										
試験検査数		59	12	71	34	4	2	3	6	6	2	128	80
基準違反数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
織 維 製 品	おしめ	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	おしめカバー	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	よだれ掛け	5	-	5	5	-	-	-	-	-	-	10	5
	下着	8	4	12	12	-	-	-	-	-	-	24	12
	中衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	外衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	手袋	2	2	4	4	2	-	-	-	-	-	10	4
	くつした	6	2	8	8	-	-	-	-	-	-	16	8
	帽子	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	6
	衛生パンツ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
	寝衣	8	2	10	-	-	-	-	-	-	-	10	10
	寝具	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	家庭用毛糸	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	2
小 計		59	10	69	34	4	0	0	0	0	0	107	72
家庭用化学製品	家庭用接着剤	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	くつしたどめ等接着剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	家庭用エアゾル製品	-	-	-	-	-	-	3	4	4	-	11	4
	家庭用洗浄剤	-	-	-	-	-	2	-	2	2	2	8	2
	小 計	0	2	2	0	0	2	3	6	6	2	21	8

表 1-13-1 2019 年度 飲料水等及びプール水の検査種別件数

検 体 名	検 査 種 別	一般依頼件数	保健所依頼件数	合 計
飲料水等	全項目検査	7	0	7
	省略不可能項目検査	58	0	58
	必須項目検査	305	6	311
	有機塩素系検査	0	0	0
	給水設備関連項目検査	14	0	14
	消毒副生成物検査	8	0	8
	原水項目検査	4	0	4
	単項目検査（細菌検査を含む）	167	0	167
	小 計	563	6	569
プール水		12	12	24
合 計		575	18	593

表 1-13-2 2019 年度 飲料水等の検体種別検査結果

検体種別	検査件数	適合件数	不適合件数	不適合率（％）
自家用井戸水	168	134	34	20.2
専用水道原水	87	87	0	0.0
専用水道浄水	221	220	1	0.5
小規模専用水道原水	18	6	12	66.7
小規模専用水道浄水	15	15	0	0.0
簡易専用水道水	28	27	1	3.6
その他	32	32	0	0.0
合 計	569	521	48	8.4

表 1-13-3 2019 年度 自家用井戸水における区別必須項目検査結果

項目 区名	検査 件数	不適 合数	不適 合率 (%)	項 目 別 不 適 合 数									
				一般 細菌	大腸 菌	亜硝酸 態窒素	硝酸・ 亜硝酸 態窒素	塩素 イオン	有機 物	pH 値	臭気	色度	濁度
中央区	20	4	20.0	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-
花見川区	13	4	30.8	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-
稲毛区	12	3	25.0	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
若葉区	78	17	21.8	7	2	-	9	1	-	-	-	-	1
緑区	42	5	11.9	3	1	-	1	-	-	-	-	-	1
美浜区	2	1	50.0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉市外	1	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	168	34	20.2	17	3	0	15	1	0	1	0	0	2

表 1-13-4 2019 年度 項目別飲料水等理化学検査

		検体数	不適合数	不適合率(%)
健康に関する項目	カドミウム及びその化合物	12	0	-
	水銀及びその化合物	11	0	-
	セレン及びその化合物	12	0	-
	鉛及びその化合物	26	0	-
	ヒ素及びその化合物	19	0	-
	六価クロム化合物	12	0	-
	亜硝酸態窒素	394	0	-
	シアン化物イオン及び塩化シアン	77	0	-
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	394	15	3.8
	フッ素及びその化合物	11	0	-
	ホウ素及びその化合物	11	0	-
	四塩化炭素	11	0	-
	1,4-ジオキサン	11	0	-
	シス1,2-ジクロロエチレン及びトランス1,2-ジクロロエチレン	11	0	-
	ジクロロメタン	11	0	-
	テトラクロロエチレン	11	0	-
	トリクロロエチレン	11	0	-
	ベンゼン	11	0	-
	塩素酸	73	0	-
	クロロ酢酸	73	0	-
	クロロホルム	73	0	-
	ジクロロ酢酸	73	0	-
	ジブロモクロロメタン	73	0	-
	臭素酸	73	0	-
	総トリハロメタン	73	0	-
	トリクロロ酢酸	73	0	-
	ブロモジクロロメタン	73	0	-
	ブロモホルム	73	0	-
	ホルムアルデヒド	73	0	-
性状に関する項目	亜鉛及びその化合物	26	0	-
	アルミニウム及びその化合物	13	0	-
	鉄及びその化合物	38	0	-
	銅及びその化合物	26	0	-
	ナトリウム及びその化合物	12	0	-
	マンガン及びその化合物	35	0	-
	塩化物イオン	395	1	0.3
	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	12	0	-
	蒸発残留物	25	0	-
	陰イオン界面活性剤	11	0	-
	ジェオスミン	11	0	-
	2-メチルイソボルネオール	11	0	-
	非イオン界面活性剤	11	0	-
	フェノール類	11	0	-
	有機物（全有機炭素（TOC）の量）	394	0	-
	pH値	394	1	0.3
	臭気	394	0	-
	色度	394	0	-
	濁度	395	4	1.0
合 計		4,467	21	

表 1-13-5 2019 年度 プール水検査

検 査 項 目	検体数
p H 値	11
濁度	11
有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	23
総トリハロメタン	1
合 計	46

表 1-14 2019 年度 室内空气中化学物質検査

項 目	検査件数	検体数
ホルムアルデヒド	3	15

(5) 内部精度管理・外部精度管理

検査の信頼性確保を目的として、感染症法に基づく感染症の患者の検体等は「千葉市病原体等検査業務要領」に基づき、保健所が「千葉市食品衛生監視指導計画」に基づき収去、買上した検体の検査については「千葉市食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領」に基づき、及び保健所が「千葉市家庭用品監視指導要領」に基づき試買した検体の検査については、「千葉市家庭用品検査施設における検査等の業務管理要領」に基づき、内部精度管理・外部精度管理を実施した。

各検査は「標準作業書」に基づき、検査に使用する機器類は GLP で規定した「機械器具保守管理標準作業書」に基づく保守点検を実施した。

「標準作業書」は常に見直し、必要な改訂を実施した。

ア 細菌検査

(7) 内部精度管理

検査精度確認のため、生菌数検査を年 5 回実施した。

(4) 外部精度管理

- a 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和元年度）「課題 1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌」及び「課題 3 腸管出血性大腸菌」に参加した。
- b 第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について、微生物学的検査（黄色ブドウ球菌検査）を実施した。
- c 千葉県衛生研究所が主催する「令和元年度第 1 回水質検査外部精度管理」に参加した。

イ ウイルス検査

(7) 外部精度管理

- a 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和元年度）「課題 2 麻疹・風疹ウイルス」に参加した。
- b 国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センターが実施する「インフルエンザウイルス分離培養・亜型同定技術に関する実態調査（iTIPS2019）」に参加した。
- c 国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センターが実施する「抗インフルエンザ薬耐性検査の実態調査」に参加した。

ウ 臨床検査

(7) 外部精度管理

国立感染症研究所エイズ研究センターが実施する「HIV-NAT 検査精度管理調査」に参加した。

エ 理化学検査

内部精度管理は、食品等や家庭用品の理化学検査試行毎の精度確認として、外部精度管理は、外部機関から送付される擬似食品等を通常と同様に検査を行い、他の参加検査施設との比較により実施した（表 1-15）。

(7) 食品等検査

a 内部精度管理

試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

b 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について延べ 3 回の検査を実施した。

(4) 家庭用品検査

内部精度管理として、試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

(7) 飲料水等検査

「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成 15 年厚生労働省告示第 261 号）」に基づき実施した。

a 内部精度管理

約 10 試料毎及び最後に一定濃度の標準試料を測定し、算出濃度が規定値内であることを確認した

b 外部精度管理

千葉県水道水質管理連絡協議会及び厚生労働省が実施する外部精度管理に参加し、延べ 3 回 5 項目について実施した。

表 1-15 2019 年度 精度管理に関する業務

	内部精度管理		外部精度管理		
	実施 頻度	実施項目	実施項目数 実施検体数	実施項目	実施機関
食品等	検査 実施毎	試験品の検査項目毎に添加回収試験を実施	5 項目 3 検体	・シロップ中のソルビン酸の定量 ・かぼちゃペースト中の 6 種農薬中 3 種農薬の定性と定量 ・あん類中の着色料の定性	一般財団法人食品薬品安全センター
家庭用品	検査 実施毎	試験品の検査項目毎に添加回収試験を実施	-	-	-
飲料水等	検査 実施毎	約 10 試料毎及び最後に一定濃度の標準試料を測定し、算出濃度が規定値内かを確認	2 項目 2 検体	・一般細菌 ・銅及びその化合物	千葉県水道水質管理連絡協議会 (水質検査精度管理委員会)
			2 項目 4 検体	・トリクロロエチレン ・臭素酸	厚生労働省

(6) 千葉市感染症情報センター

感染症情報センターは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「法」という）に基づく「感染症発生動向調査事業実施要綱」の規定により、多様な感染症の発生及びまん延を防止し、適切な感染症対策を立案することを目的に、感染症の発生情報の把握と分析、及び病原体情報の収集、分析を行い、その結果を国に報告するとともに、保健所、医療機関等の関係者への還元・提供、ホームページで公開している。

事業は年単位（毎年1月から12月まで）で実施しているが、冬期に流行するインフルエンザについてはシーズン単位（第36週（9月）から翌年の第35週（8月）まで）で集計・解析している。

感染症発生動向調査の対象感染症は、全数把握対象感染症が89疾患（一類7疾患、二類7疾患、三類5疾患、四類44疾患、五類の一部24疾患、及び新型インフルエンザ感染症2疾患、並びに指定感染症（2019年は指定なし））、定点把握対象感染症が25疾患（五類の一部24疾患及び疑似症）となっている（表1-16）。

ア 全数把握対象感染症の発生状況

全数把握感染症の月別届出数（表1-17）、及び過去5年の届出数の推移（表1-18）。

概要は次のとおり。

(7) 二類感染症

a 結核

届出数は167件で、2016年以降減少。性別は、男性101件（60.5%）、女性66件（39.5%）で、年齢中央値は全体で57歳、男性は61歳、女性は52歳（図1-1）。

(イ) 三類感染症

a 腸管出血性大腸菌感染症

届出数は19件でほぼ同数で推移、うち溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は2件（図1-2-1）。性別は、男性7件（36.8%）、女性12件（63.2%）、年齢中央値は24歳で、40歳未満で全体の78.9%（15件）（図1-2-2）。

(ウ) 四類感染症

a E型肝炎

届出数は9件で、やや増加。性別は、男性6件（66.7%）、女性3件（33.3%）、年齢中央値は52歳で、50歳代で全体の55.6%（5件）（図1-3）。

b A型肝炎

届出数は6件で、2018年より減少し、例年とほぼ同数。性別は、男性4件（66.7%）、女性2件（33.3%）で、年齢中央値は46歳、40歳代で全体の50.0%（3件）（図1-4）。

c コクシジオイデス症

届出数は1件で、国外での感染事例。

d デング熱

届出数は3件で、いずれも国外での感染事例。

病型はデング熱が2件、デング出血熱が1件（図1-5）。

e レジオネラ症

届出数は15件で2018年とほぼ同数、うち肺炎型14件、無症状病原体保有者1件（図1-6-1）。性別は、男性11件（73.3%）、女性4件（26.7%）、全て50歳代以上で、年齢中央値は69歳（図1-6-2）。

(I) 五類感染症

a アメーバ赤痢

届出数は6件で、2015年以降減少していたが増加。性別は、男性5件（83.3%）、女性1件（16.7%）（図1-7）。

b カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

届出数は21件で、2014年の調査開始以降、増加傾向。性別は、男性が15件（71.4%）、女性が6件（28.6%）で、年齢中央値は63.5歳、40歳代以上で全体の95.2%（20件）（図1-8）。

c 急性脳炎

届出数は15件で、2016年を除きほぼ同数。20歳未満で全体の80.0%（12件）（図1-9）。

d クロイツフェルト・ヤコブ病

届出数は3件で、過去5年で最多。全て70歳代以上で、病型は全て古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）。

e 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出数は9件で、2018年と同数。性別では、男性が8件（88.9%）、女性が1件（11.1%）。年齢中央値は72歳、60歳代以上が全体の80.0%（図1-10-1）。分離・同定された病原体の血清群は、A群5件（55.6%）、B群1件（11.1%）、G群3件（33.3%）（図1-10-2）。

f 後天性免疫不全症候群

届出数は6件で、2016年以降減少していたが、増加。性別は男性が4件（66.7%）、女性が2件（33.3%）、年齢中央値は41.5歳で、40歳代以下が全体の83.3%（5件）（図1-11）。

g 侵襲性インフルエンザ菌感染症

届出数は7件で、2017年以降再び増加。性別は、男性が6件（85.7%）、女性が1件（14.3%）で、20歳代以下と70歳代以上に分布（図1-12）。

h 侵襲性肺炎球菌感染症

届出数は12件で、過去4年間からほぼ半減。年齢中央値は69.5歳で、40歳代以上が全体の91.7%（11件）（図1-13）。

i 水痘（入院例に限る。）

届出数は5件で、2018年より増加。20歳代以上で全体の60%（3件）。ワクチンは、0歳代で接種歴は無く、成人では不明（図1-14）。

j 梅毒

届出数は34件で、2017年と同等の水準。年齢中央値は全体で37.5歳、男性は42歳、女性は28歳で、男性は30歳代から40歳代、女性は20歳代が多い（図1-15-1）。病型別は、早期顕症梅毒（Ⅰ期）7件（20.6%）、早期顕症梅毒（Ⅱ期）9件（26.4%）、晩期顕症梅毒2件（5.9%）、無症状病原体保有者16件（47.1%）（図1-15-2）。

k 百日咳

2018 年 1 月より小児科定点把握疾患から成人を含む全数把握疾患（五類感染症）に変更。届出数は 137 件で、2018 年に比べて減少。年齢中央値は 11 歳で、20 歳未満が全体の 73.0%（100 件）、成人では 40 歳代が比較的多く 10.9%（15 件）。20 歳未満のワクチン接種歴は 78.0%（78 件）、成人では 10.8%（4 件）（図 1-16）。

l 風しん

届出数は 48 件で、流行が始まった 2018 年より半減。性別は、男性 36 件（75.0%）、女性 12 件（25.0%）、年齢中央値は 36.5 歳で、30 歳代から 40 歳代が全体の 62.5%（30 件）（図 1-17-1）。ワクチン接種歴は、20 歳未満では少なくとも 1 回以上の接種を受けていたが、成人では無し又は不明が 88.4%（図 1-17-2）。

m 麻しん

届出数は 3 件で、2014 年の届出（11 件）以来。性別は男性 2 件、女性 1 件で、年齢は 20 歳代から 30 歳代。

イ 定点把握対象の感染症

定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（図 2-1）、定点把握感染症（インフルエンザ）報告数のシーズン別推移及び型別迅速診断結果（図 2-2）、定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移（図 2-3）、定点把握性感染症の月別報告数（表 1-19）、定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（図 2-4）、並びに基幹定点把握感染症の月別報告数（表 1-20）。

概要は次のとおり。

(7) RS ウイルス感染症

報告数は 318 件で 2018 年の 266 件より増加した。発生のピークは 2018 年とほぼ同時期の第 31 週（1 定点当たりの報告数 1.83。以下同じ。）で、第 32 週以降一旦減少したが第 34 週から増加に転じ第 36 週（1.81）に再びピークを迎え二峰性を示した（図 2-1）。

(イ) 咽頭結膜熱

報告数は 333 件で、2018 年の 201 件より増加し、過去 5 年で最多の報告数。第 22 週に最高値（1.39）となり、2015 年第 23 週と同数値（図 2-1）。

(ウ) 手足口病

報告数は 2,723 件で、2018 年の約 5 倍となり、過去と比べて非常に大きな流行となった。第 25 週に流行発生警報開始基準値（5.0）を上回り、第 28 週の最高値（21.2）は現行の調査方法が開始された 1999 年以降で最多（図 2-1）。

(エ) インフルエンザ

（2019 年 36 週から 2020 年 35 週）

シーズン開始の第 36 週の報告数が 32 件（1.23）で、流行の目安とされている定点当たりの報告数（1.00）を上回り、過去 5 シーズンと比べて 11 週から 17 週早かった。その後も報告数が多

く、第 50 週には流行発生注意報基準値（10.0）を上回り、第 52 週に最高値（22.33）となった後減少、流行発生警報開始基準値（30.0）を上回ることなく 2020 年第 10 週には 1.00 を下回り、第 20 週には定点からの報告数が 0 となった（図 2-2）。

定点医療機関での型別迅速診断結果の集計では、2019/20 シーズンは 2020 年第 6 週まで A 型が優位であったが、以降は第 11 週まで B 型が優位となった。報告があった型別は、A 型 3570 件（73.3%）、B 型 570 件（11.7%）、A 型及び B 型 9 件（0.2%）、A 型又は B 型 723 件（14.8%）（図 2-2）。

表1-16 調査対象感染症一覧

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について(1999年3月19日健医発第458号通知：2018年4月10日健発0410第1号改正)2018年5月1日施行

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
1	一類	エボラ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
2	一類	クリミア・コンゴ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
3	一類	痘そう	全数	直ちに	○	○	○
4	一類	南米出血熱	全数	直ちに	○	○	○
5	一類	ペスト	全数	直ちに	○	○	○
6	一類	マールブルグ病	全数	直ちに	○	○	○
7	一類	ラッサ熱	全数	直ちに	○	○	○
8	二類	急性灰白髄炎	全数	直ちに	○		○
9	二類	結核	全数	直ちに	○	○	○
10	二類	ジフテリア	全数	直ちに	○		○
11	二類	重症急性呼吸器症候群 *1	全数	直ちに	○	○	○
12	二類	中東呼吸器症候群 *2	全数	直ちに	○	○	○
13	二類	鳥インフルエンザ (H5N1)	全数	直ちに	○	○	○
14	二類	鳥インフルエンザ (H7N9)	全数	直ちに	○	○	○
15	三類	コレラ	全数	直ちに	○		○
16	三類	細菌性赤痢	全数	直ちに	○		○
17	三類	腸管出血性大腸菌感染症	全数	直ちに	○		○
18	三類	腸チフス	全数	直ちに	○		○
19	三類	パラチフス	全数	直ちに	○		○
20	四類	E型肝炎	全数	直ちに	○		○
21	四類	ウエストナイル熱 *3	全数	直ちに	○		○
22	四類	A型肝炎	全数	直ちに	○		○
23	四類	エキノコックス症	全数	直ちに	○		○
24	四類	黄熱	全数	直ちに	○		○
25	四類	オウム病	全数	直ちに	○		○
26	四類	オムスク出血熱	全数	直ちに	○		○
27	四類	回帰熱	全数	直ちに	○		○
28	四類	キャサヌル森林病	全数	直ちに	○		○
29	四類	Q熱	全数	直ちに	○		○
30	四類	狂犬病	全数	直ちに	○		○
31	四類	コクシジオイデス症	全数	直ちに	○		○
32	四類	サル痘	全数	直ちに	○		○
33	四類	ジカウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
34	四類	重症熱性血小板減少症候群 *4	全数	直ちに	○		○
35	四類	腎症候性出血熱	全数	直ちに	○		○
36	四類	西部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
37	四類	ダニ媒介脳炎	全数	直ちに	○		○
38	四類	炭疽	全数	直ちに	○		○
39	四類	チクングニア熱	全数	直ちに	○		○
40	四類	つつが虫病	全数	直ちに	○		○
41	四類	デング熱	全数	直ちに	○		○
42	四類	東部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
43	四類	鳥インフルエンザ *5	全数	直ちに	○		○
44	四類	ニパウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
45	四類	日本紅斑熱	全数	直ちに	○		○
46	四類	日本脳炎	全数	直ちに	○		○

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
47	四類	ハンタウイルス肺症候群	全数	直ちに	○		○
48	四類	B ウイルス病	全数	直ちに	○		○
49	四類	鼻疽	全数	直ちに	○		○
50	四類	ブルセラ症	全数	直ちに	○		○
51	四類	ベネズエラウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
52	四類	ヘンドラウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
53	四類	発しんチフス	全数	直ちに	○		○
54	四類	ボツリヌス症	全数	直ちに	○		○
55	四類	マラリア	全数	直ちに	○		○
56	四類	野兎病	全数	直ちに	○		○
57	四類	ライム病	全数	直ちに	○		○
58	四類	リッサウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
59	四類	リフトバレー熱	全数	直ちに	○		○
60	四類	類鼻疽	全数	直ちに	○		○
61	四類	レジオネラ症	全数	直ちに	○		○
62	四類	レプトスピラ症	全数	直ちに	○		○
63	四類	ロッキー山紅斑熱	全数	直ちに	○		○
64	五類	アメーバ赤痢	全数	7 日以内	○		
65	五類	ウイルス性肝炎 *6	全数	7 日以内	○		
66	五類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	全数	7 日以内	○		
67	五類	急性弛緩性麻痺 *7	全数	7 日以内	○		
68	五類	急性脳炎 *8	全数	7 日以内	○		
69	五類	クリプトスポリジウム症	全数	7 日以内	○		
70	五類	クロイツフェルト・ヤコブ病	全数	7 日以内	○		
71	五類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	全数	7 日以内	○		
72	五類	後天性免疫不全症候群	全数	7 日以内	○		○
73	五類	ジアルジア症	全数	7 日以内	○		
74	五類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	全数	7 日以内	○		
75	五類	侵襲性髄膜炎菌症	全数	直ちに	○		
76	五類	侵襲性肺炎球菌感染症	全数	7 日以内	○		
77	五類	水痘 *9	全数	7 日以内	○		
78	五類	先天性風しん症候群	全数	7 日以内	○		
79	五類	梅毒	全数	7 日以内	○		○
80	五類	播種性クリプトコックス症	全数	7 日以内	○		
81	五類	破傷風	全数	7 日以内	○		
82	五類	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	全数	7 日以内	○		
83	五類	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	全数	7 日以内	○		
84	五類	百日咳	全数	7 日以内	○		
85	五類	風しん	全数	直ちに	○		
86	五類	麻しん	全数	直ちに	○		
87	五類	薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数	7 日以内	○		
88	五類	R S ウイルス感染症	定点	翌週の月曜日	○		
89	五類	咽頭結膜熱	定点	翌週の月曜日	○		
90	五類	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	定点	翌週の月曜日	○		
91	五類	感染性胃腸炎	定点	翌週の月曜日	○		
92	五類	水痘	定点	翌週の月曜日	○		
93	五類	手足口病	定点	翌週の月曜日	○		
94	五類	伝染性紅斑	定点	翌週の月曜日	○		

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
95	五類	突発性発しん	定点	翌週の月曜日	○		
96	五類	ヘルパンギーナ	定点	翌週の月曜日	○		
97	五類	流行性耳下腺炎	定点	翌週の月曜日	○		
98	五類	インフルエンザ *10	定点	翌週の月曜日	○		
99	五類	急性出血性結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
100	五類	流行性角結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
101	五類	性器クラミジア感染症	定点	翌月初日	○		
102	五類	性器ヘルペスウイルス感染症	定点	翌月初日	○		
103	五類	尖圭コンジローマ	定点	翌月初日	○		
104	五類	淋菌感染症	定点	翌月初日	○		
105	五類	クラミジア肺炎 *11	定点	翌週の月曜日	○		
106	五類	細菌性髄膜炎 *12	定点	翌週の月曜日	○		
107	五類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	定点	翌月初日	○		
108	五類	マイコプラズマ肺炎	定点	翌週の月曜日	○		
109	五類	無菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
110	五類	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	定点	翌月初日	○		
111	五類	薬剤耐性緑膿菌感染症	定点	翌月初日	○		
112	新型インフルエンザ 等感染症	新型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
113		再興型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
114	疑似症	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの	定点	直ちに (オンラインシステムにより、疑似症定点から国へ直接報告)	-	-	-

- *1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。
- *2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。
- *3 ウエストナイル脳炎を含む。
- *4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。
- *5 H5N1及びH7N9を除く。
- *6 E型肝炎及びA型肝炎を除く。
- *7 急性灰白髄炎を除く。
- *8 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。
- *9 患者が入院を要すると認められるものに限る。
- *10 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。
- *11 オウム病を除く。
- *12 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表1-17 全数把握感染症の月別届出数（2019年）

[illegible]

類型	感染症名	届出数												
		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
四類	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症													
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発しんチフス													
	ボツリヌス症													
	マラリア													
	野兔病													
	ライム病													
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽													
	レジオネラ症	15	1	2			1	3	2	1	2	1	1	1
	レプトスピラ症													
	ロッキー山紅斑熱													
五類	アメーバ赤痢	6				1		2	2	1				
	ウイルス性肝炎													
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	21	1	1		3			2	1	4	3	2	4
	急性弛緩性麻痺	1										1		
	急性脳炎	15	3				3	1	1	1	3	1	1	1
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3		1								1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9		2	1	1		1				1		3
	後天性免疫不全症候群	6		1	1			1	2		1			
	ジアルジア症													
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	2	1		2			2					
	侵襲性髄膜炎菌感染症													
	侵襲性肺炎球菌感染症	12	2	1		3	3		1	1				1
	水痘（入院例）	5	2	1				1				1		
	先天性風しん症候群													
	梅毒	34	4		5	2	1	6	3	3	3	2	3	2
	播種性クリプトコックス症	2				1								1
	破傷風	2				1				1				
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	百日咳	137	7	12	9	7	12	15	28	21	14	4	3	5
	風しん	48	8	1	9	6	3	7	6	4	1		2	1
	麻しん	3				1	1				1			
	薬剤耐性アシネトバクター感染症													
	新型インフルエンザ													
計		531	46	34	45	50	49	53	78	49	40	24	25	38

表1-18 全数把握感染症の年別届出数の年別推移（2015年-2019年）

類型	感染症名	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	痘そう					
	南米出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	結核	231	238	215	177	167
	ジフテリア					
	重症急性呼吸器症候群					
	中東呼吸器症候群					
	鳥インフルエンザ					
	鳥インフルエンザ（H7N9）					
三類	コレラ		1			
	細菌性赤痢		1	1	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	13	20	24	24	19
	腸チフス	1			1	
	パラチフス					
四類	E型肝炎	3	7	7	7	9
	ウエストナイル熱					
	A型肝炎	6	5	5	9	6
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	オムスク出血熱					
	回帰熱					
	キャサヌル森林病					
	Q熱					
	狂犬病					
	コクシジオイデス症					1
	サル痘					
	ジカウイルス感染症					
	重症熱性血小板減少症候群					
	腎症候性出血熱					
	西部ウマ脳炎					
	ダニ媒介脳炎					
	炭疽					
	チクングニア熱					
	つつが虫病	1		2	1	
	デング熱	3	5	1		3
	東部ウマ脳炎					
	鳥インフルエンザ					
	ニパウイルス感染症					
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					
	ハンタウイルス肺症候群					
	Bウイルス病					

類型	感染症名	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
四類	鼻疽					
	ブルセラ症					
	ベネズエラウマ脳炎					
	ヘンドラウイルス感染症					
	発しんチフス					
	ボツリヌス症					
	マラリア					
	野兔病					
	ライム病					
	リッサウイルス感染症					
	リフトバレー熱					
	類鼻疽					
	レジオネラ症	13	8	7	14	15
	レプトスピラ症					
	ロッキー山紅斑熱					
五類	アメーバ赤痢	9	8	5	3	6
	ウイルス性肝炎	5	2	1		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	17	12	16	20	21
	急性弛緩性麻痺				3	1
	急性脳炎	15	30	19	12	15
	クリプトスポリジウム症		1			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1	1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	7	3	9	9
	後天性免疫不全症候群	7	8	5	3	6
	ジアルジア症	3	1		1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	5	1	3	7
	侵襲性髄膜炎菌感染症				1	
	侵襲性肺炎球菌感染症	25	28	25	25	12
	水痘（入院例）	1	1		3	5
	先天性風しん症候群					
	梅毒	13	29	33	23	34
	播種性クリプトコックス症	1	3		2	2
	破傷風			1	2	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					
	百日咳				222	137
	風しん	4	4	1	95	48
	麻しん					3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1			
	新型インフルエンザ					

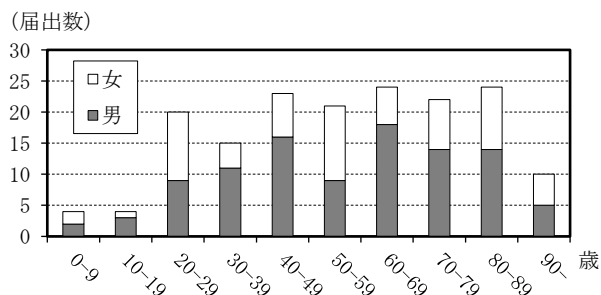


図1-1 結核 性別及び年齢階級別届出数

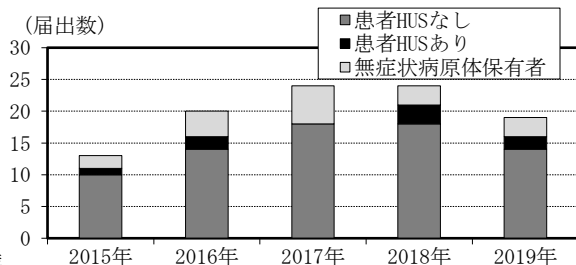


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症
過去5年の病型別届出数の推移

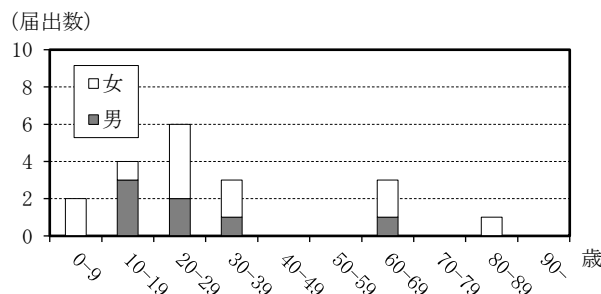


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症
性別及び年齢階級別届出数

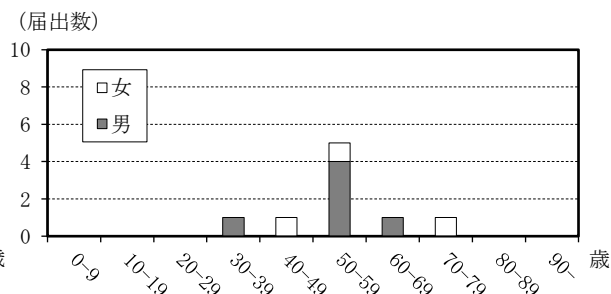


図1-3 E型肝炎 性別及び年齢階級別届出数

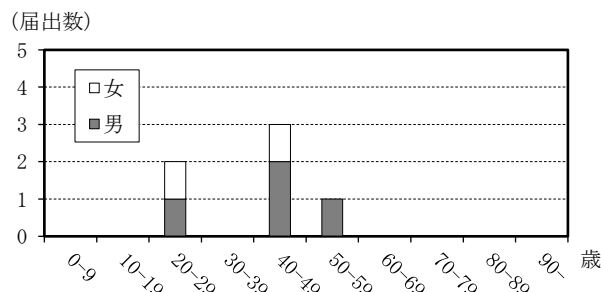


図1-4 A型肝炎 性別及び年齢階級別届出数

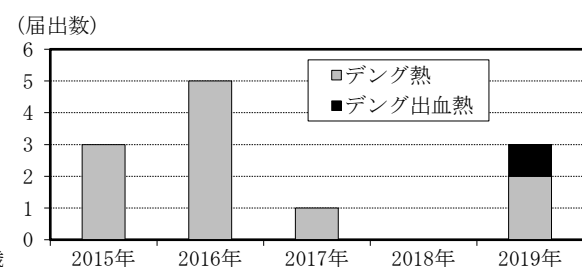


図1-5 デング熱 過去5年の届出数の推移

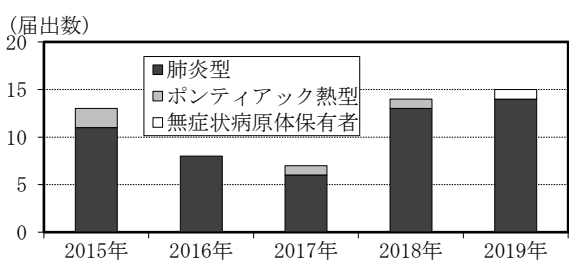


図1-6-1 レジオネラ症 過去5年の届出数の推移

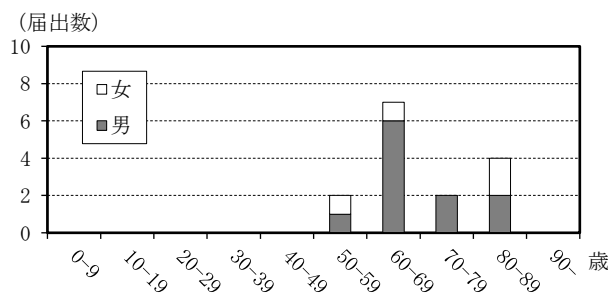


図1-6-2 レジオネラ症 性別及び年齢階級別届出数

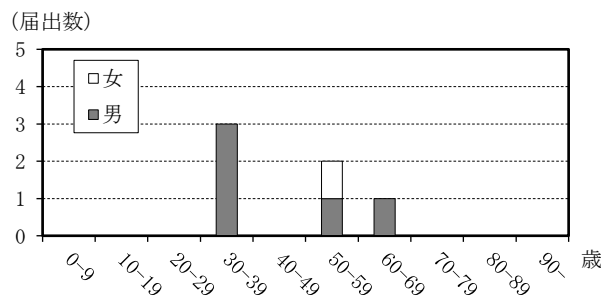


図1-7 アメーバ赤痢 性別及び年齢階級別届出数

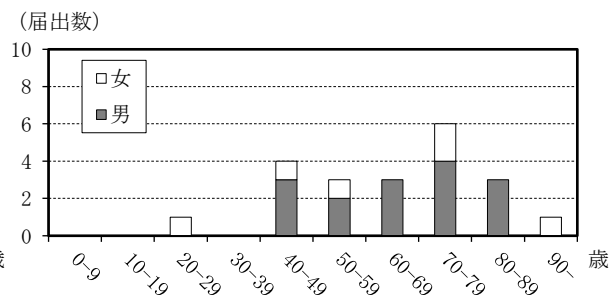


図1-8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
性別及び年齢階級別届出数

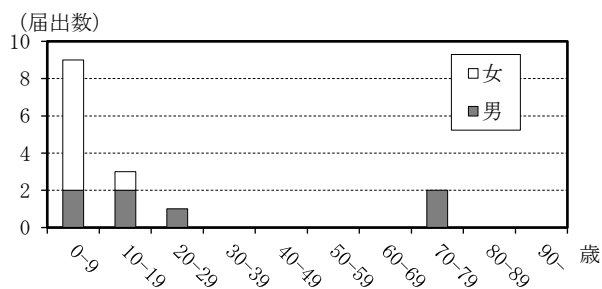


図1-9 急性脳炎 性別及び年齢階級別届出数

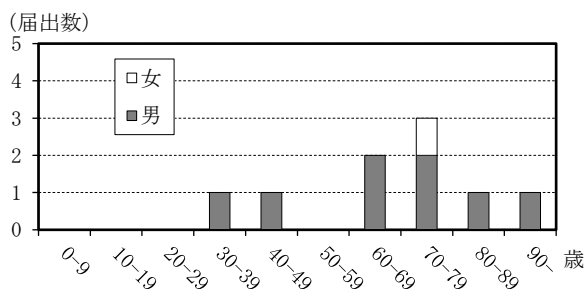


図1-10-1 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
性別及び年齢階級別届出数

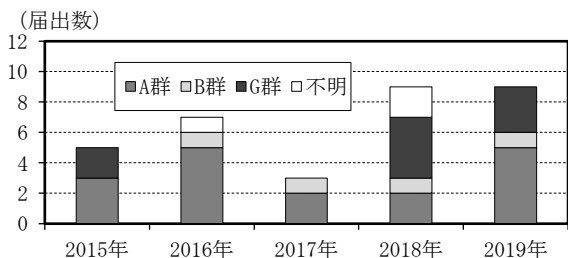


図1-10-2 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
過去5年の届出数の推移

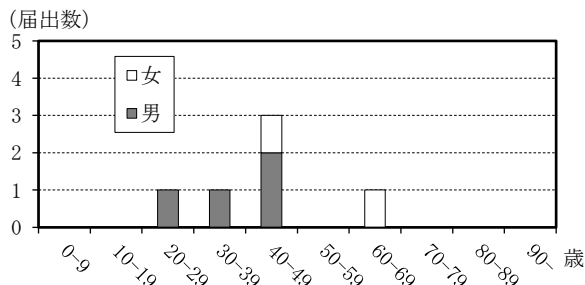


図1-11 後天性免疫不全症候群
性別及び年齢階級別届出数

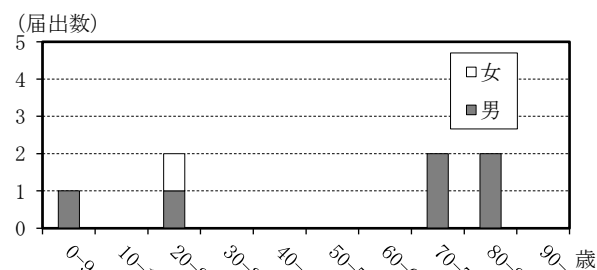


図1-12 侵襲性インフルエンザ菌感染症
性別及び年齢階級別届出数

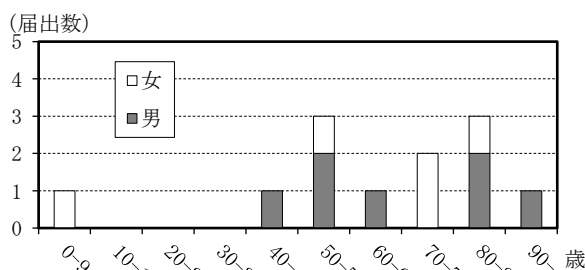


図1-13 侵襲性肺炎球菌感染症
性別及び年齢階級別届出数

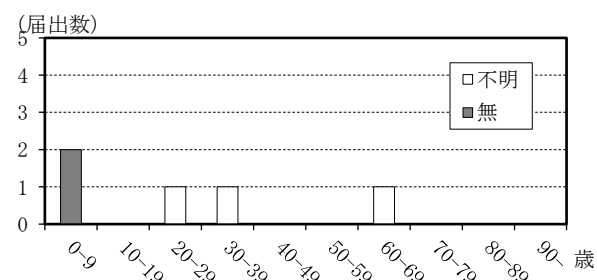


図1-14 水痘(入院例) ワクチン接種及び年齢階級別届出数

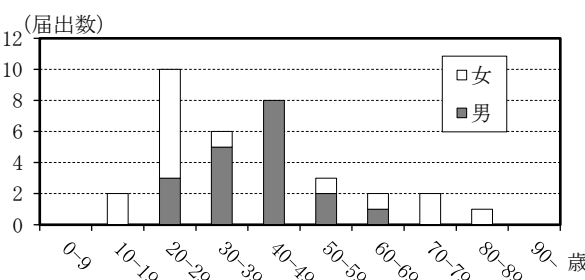


図1-15-1 梅毒 性別及び年齢階級別届出数

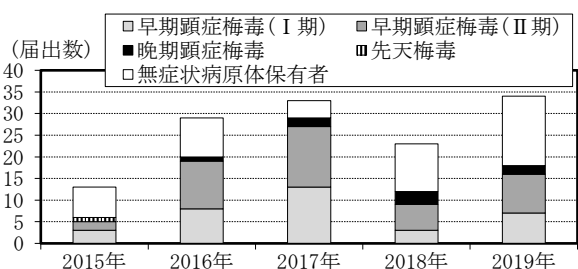


図1-15-2 梅毒 過去5年の届出数の推移

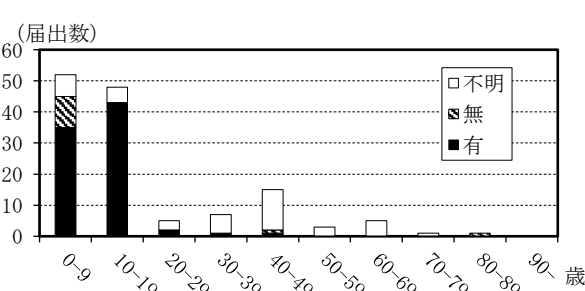


図1-16 百日咳 年齢階級別及びワクチン接種歴

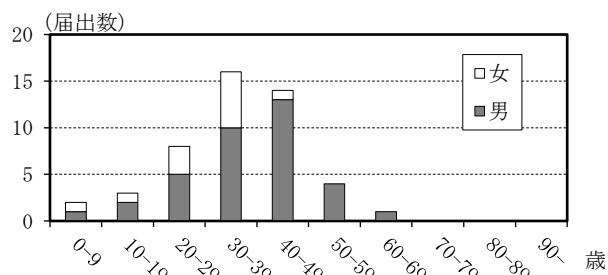


図1-17-1 風しん 性別及び年齢階級別届出数

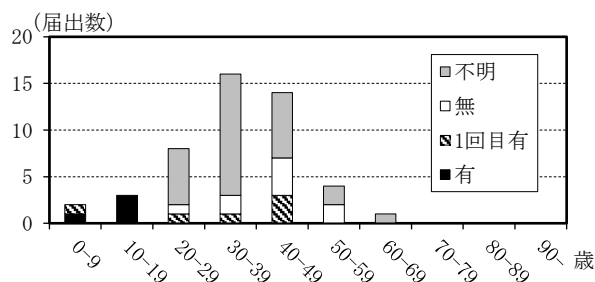


図1-17-2 風しん ワクチン接種歴

(定点あたりの報告数)

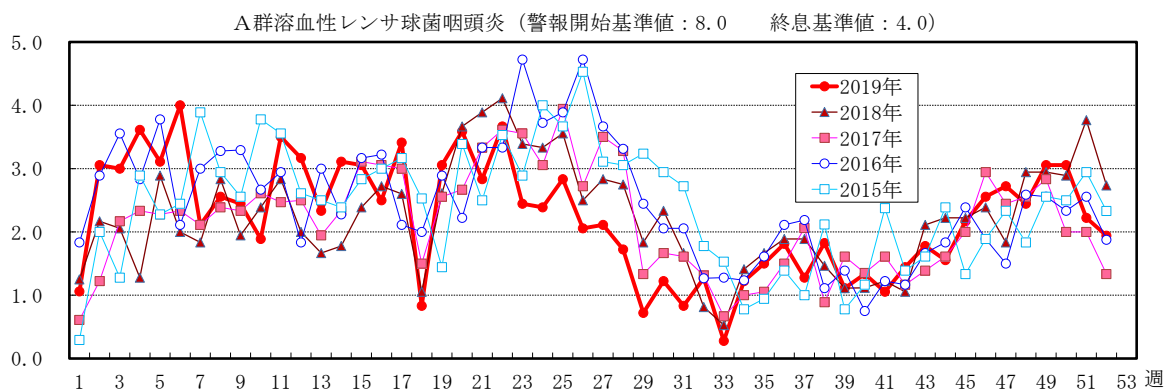
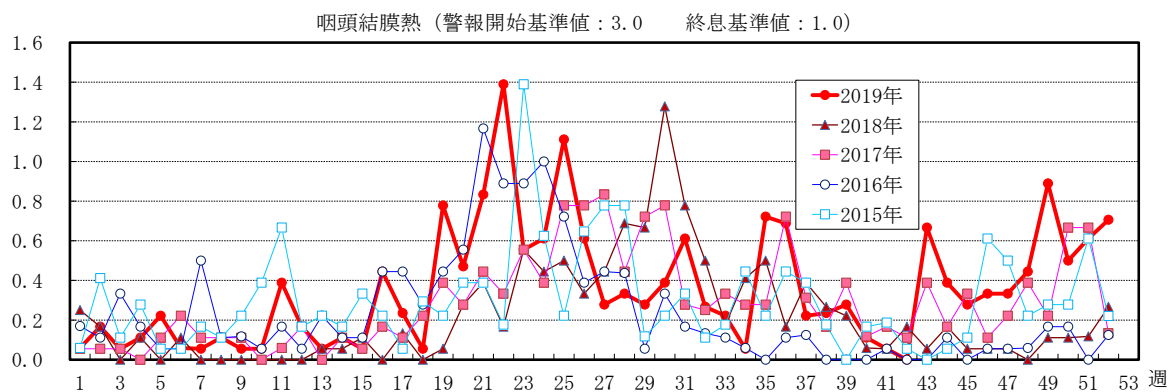
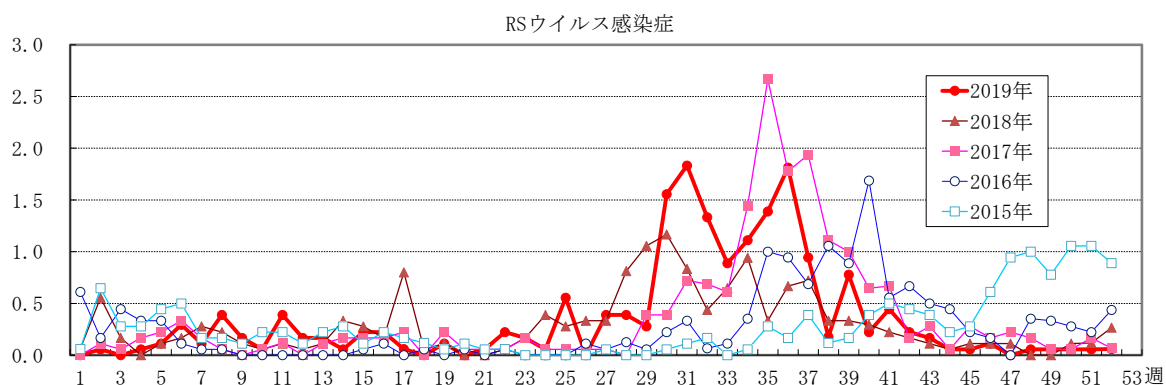
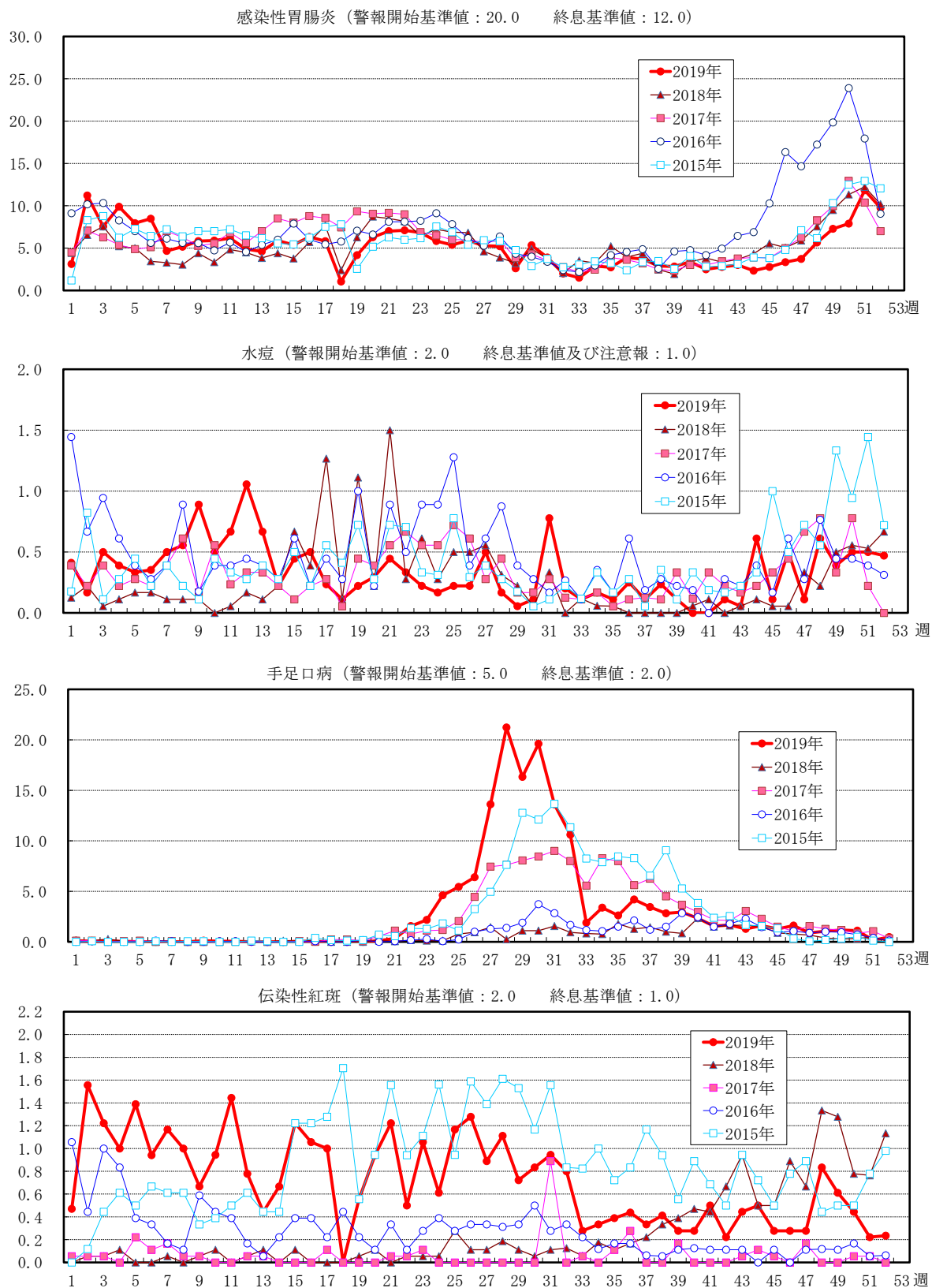
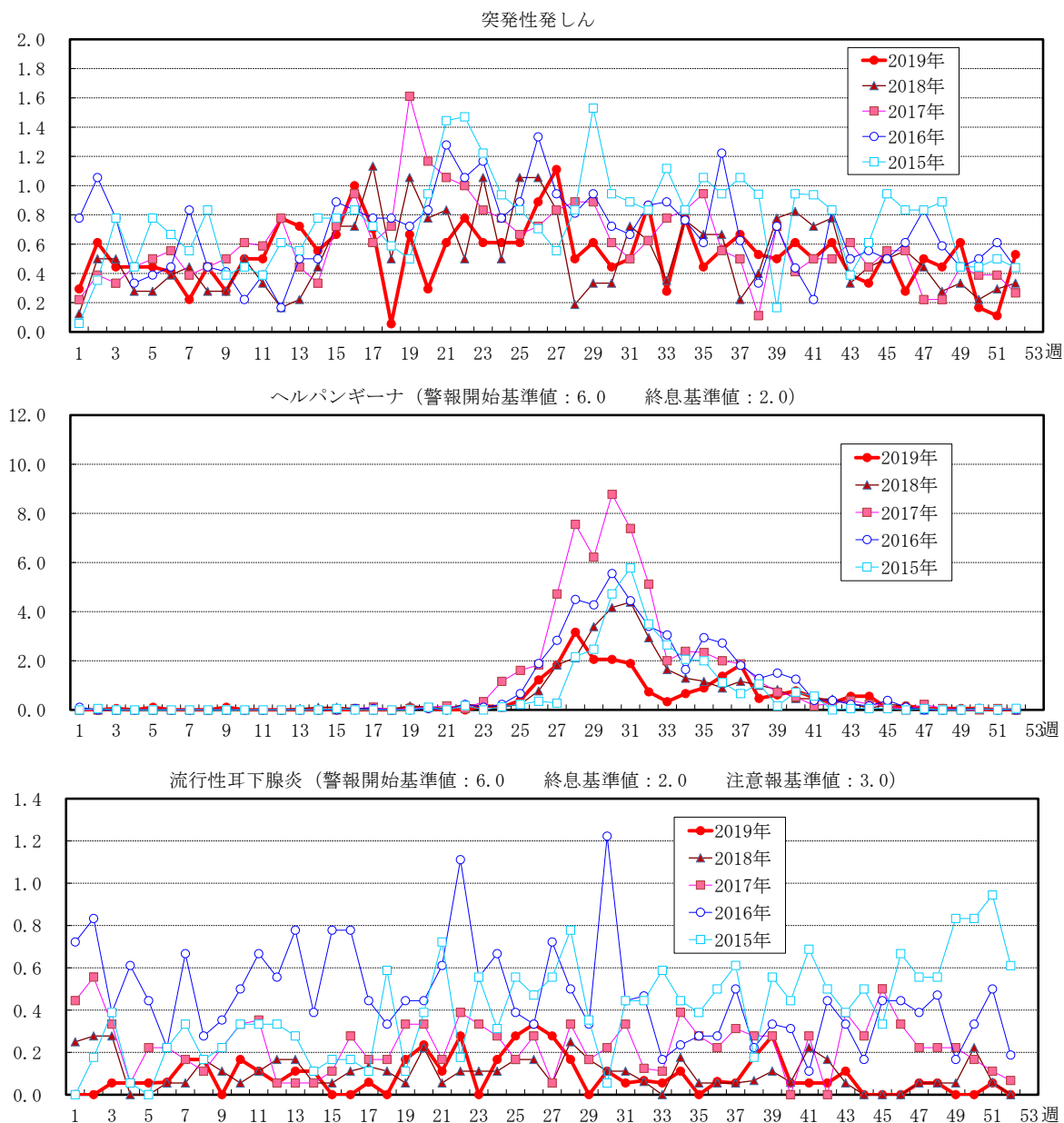


図2-1 定点把握感染症 (小児科) 報告数の年別推移 (2015年-2019年)

(定点あたりの報告数)



(定点あたりの報告数)



(定点あたりの報告数)

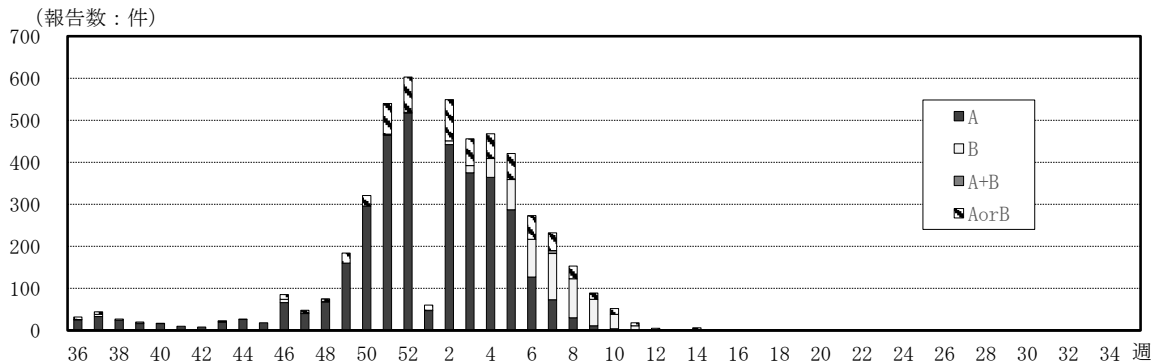
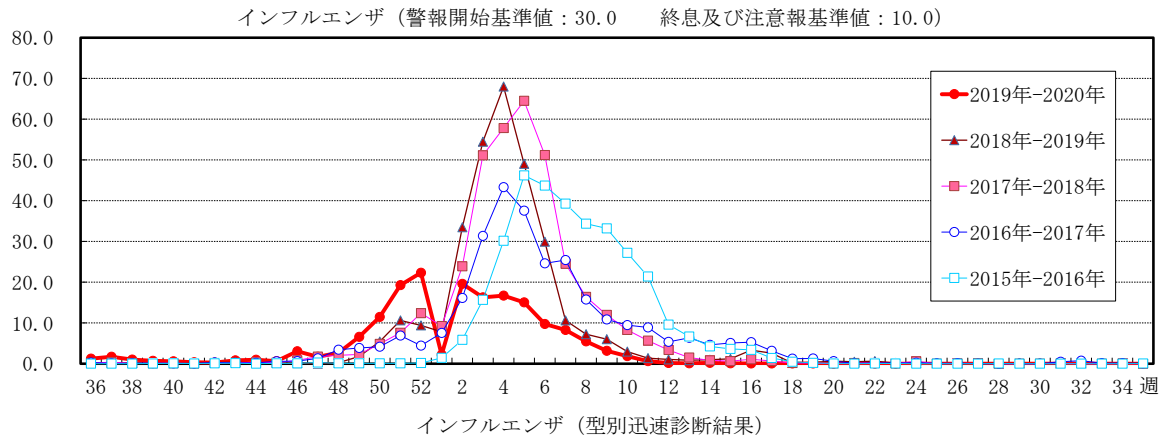


図2-2 定点把握感染症（インフルエンザ）報告数のシーズン別推移（2015年-2016年/2019年-2020年）
及び型別迅速診断結果（2019年-2020年）

(定点あたりの報告数)

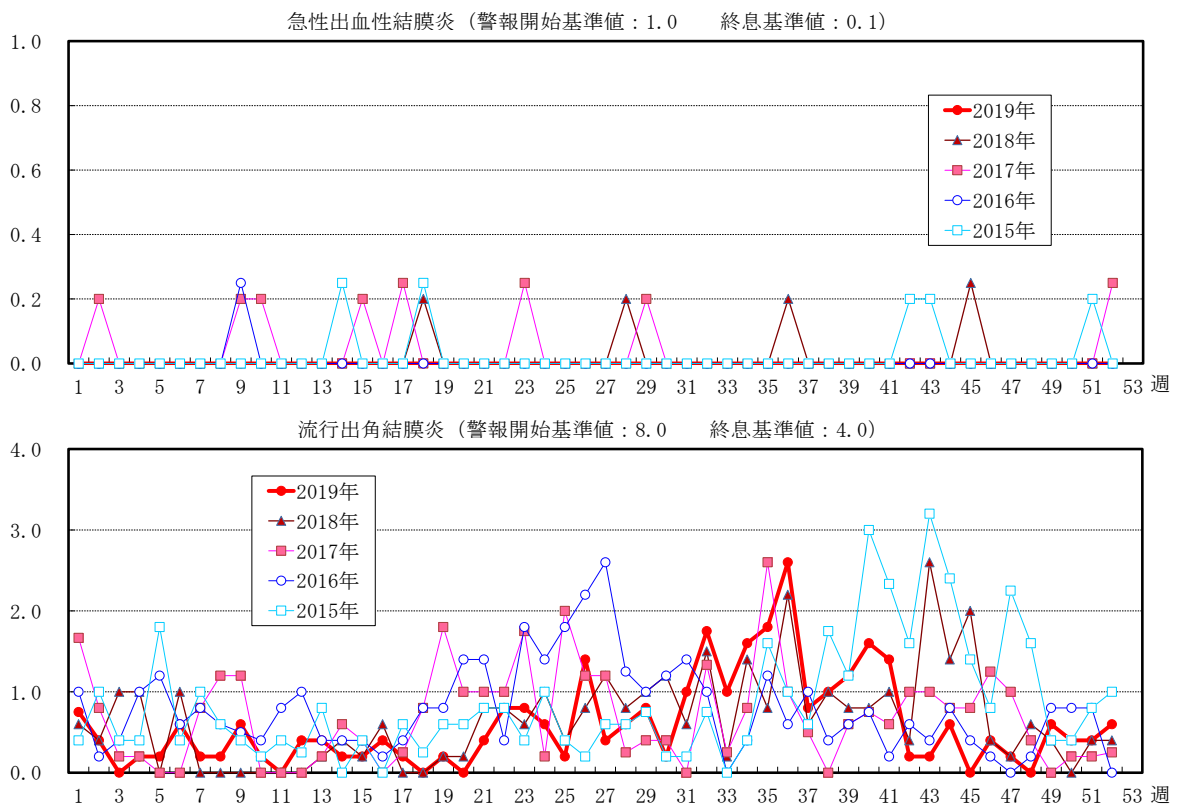


図2-3 定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移（2015年-2019年）

表1-19 定点把握性感染症の月別報告数（2019年）

類型	感染症名		月 別 報 告 数												
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
5 類	性器クラミジア 感染症	計	22 3.7	11 1.6	18 2.6	13 2.2	16 2.3	9 1.5	62 8.9	84 12.0	98 14.0	117 16.7	99 14.1	119 17.0	668 8.2
		男	12 2.0	7 1.0	13 1.9	9 1.5	11 1.6	1 0.2	52 7.4	77 11.0	94 13.4	110 15.7	94 13.4	108 15.4	588 7.3
		女	10 1.7	4 0.6	5 0.7	4 0.7	5 0.7	8 1.3	10 1.4	7 1.0	4 0.6	7 1.0	5 0.7	11 1.6	80 1.0
5 類	性器ヘルペスウイルス 感染症	計	2 0.3	5 0.7	7 1.0	8 1.3	4 0.6	6 1.0	6 0.9	13 1.9	8 1.1	18 2.6	17 2.4	16 2.3	110 1.4
		男	2 0.3	2 0.3	2 0.3	2 0.3	0 0.0	1 0.2	3 0.4	9 1.3	7 1.0	9 1.3	10 1.4	10 1.4	57 0.7
		女	0 0.0	3 0.4	5 0.7	6 1.0	4 0.6	5 0.8	3 0.4	4 0.6	1 0.1	9 1.3	7 1.0	6 0.9	53 0.7
5 類	尖圭コンジローマ	計	3 0.5	3 0.4	7 1.0	6 1.0	3 0.4	4 0.7	9 1.3	14 2.0	10 1.4	12 1.7	15 2.1	12 1.7	98 1.2
		男	2 0.3	2 0.3	6 0.9	5 0.8	3 0.4	3 0.5	5 0.7	13 1.9	9 1.3	8 1.1	14 2.0	11 1.6	81 1.0
		女	1 0.2	1 0.1	1 0.1	1 0.2	0 0.0	1 0.2	4 0.6	1 0.1	1 0.1	4 0.6	1 0.1	1 0.1	17 0.2
5 類	淋菌感染症	計	5 0.8	1 0.1	7 1.0	5 0.8	7 1.0	7 1.2	13 1.9	7 1.0	12 1.7	19 2.7	14 2.0	20 2.9	117 1.4
		男	4 0.7	1 0.1	6 0.9	5 0.8	6 0.9	6 1.0	13 1.9	6 0.9	11 1.6	16 2.3	13 1.9	16 2.3	103 1.3
		女	1 0.2	0 0.0	1 0.1	0 0.0	1 0.1	1 0.2	0 0.0	1 0.1	1 0.1	3 0.4	1 0.1	4 0.6	14 0.2
なし	非クラミジア性非淋菌性 尿道炎	計	17 2.8	20 2.9	22 3.1	8 1.3	22 3.1	15 2.5	10 1.4	14 2.0	13 1.9	12 1.7	9 1.3	6 0.9	168 2.1
		男	17 2.8	19 2.7	20 2.9	8 1.3	19 2.7	15 2.5	10 1.4	14 2.0	12 1.7	12 1.7	9 1.3	6 0.9	161 2.0
		女	0 0.0	1 0.1	2 0.3	0 0.0	3 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 0.1

上段：報告数、下段：定点あたりの報告数

(定点あたりの報告数)

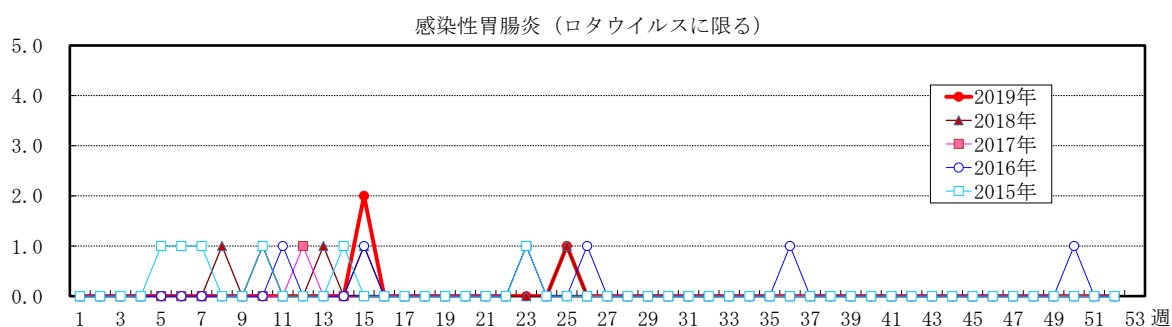


図2-4 定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（2015年-2019年）

(定点あたりの報告数)

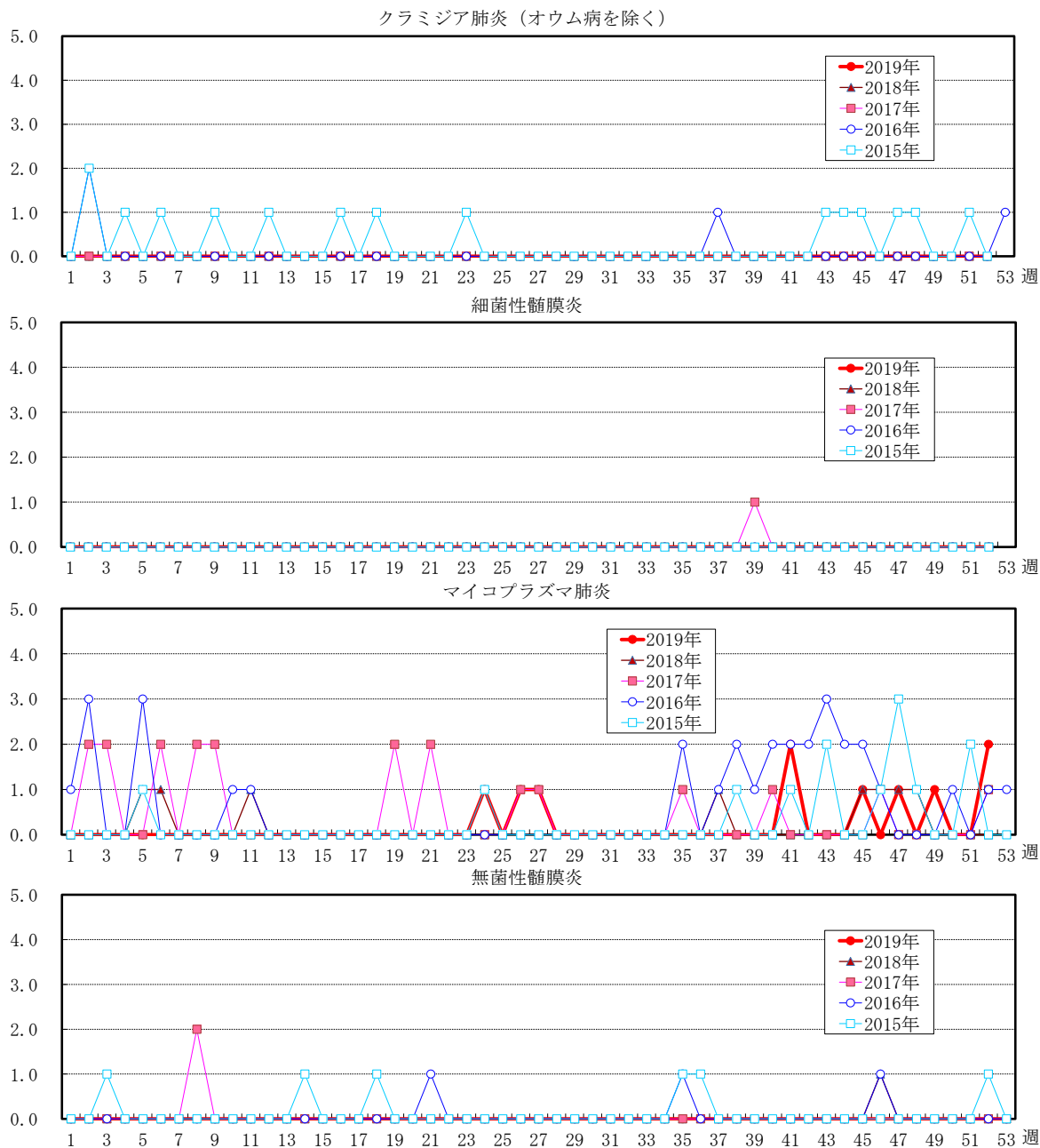


図2-4 定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（2015年-2019年）

表1-20 基幹定点把握感染症の月別報告数（2019年）

類型	感染症名		月 別 報 告 数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
5 類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	4	0	1	1	4	0	2	5	4	3	0	5	29
		男	1	0	1	1	2	0	2	3	2	1	0	2	15
		女	3	0	0	0	2	0	0	2	2	2	0	3	14
5 類	メチシリン耐性ブドウ球菌感染症	計	5	5	3	7	5	1	6	2	6	0	1	8	49
		男	3	3	3	2	2	1	2	2	2	0	1	5	26
		女	2	2	0	5	3	0	4	0	4	0	0	3	23
5 類	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(数字は定点あたりの報告数／定点数：1)